



K 城戸3

登城道が急斜面と土塁に挟まれたところに城戸(出入口)が確認できます。土塁の基部には石積みが確認できます。道幅は2.1m〜2.4m、石積みを使用されている石材は安山岩です。



J 大見城平

本丸北西の山腹には、東西約150m、南北約100mの範囲に、多くの平坦面があります。大見城平には登城道に沿って3か所に城戸が設けられています。



I 城戸1(石の門)

麓の鹿熊地区から大見城平へ至る山道が残されており、その出入口には石積みの門跡が確認できます。石の門とも呼ばれています。道幅は約3.6m、石積みを使用されている石材は安山岩です。



D 石垣

2016年の発掘調査によって本丸中央の斜面には石垣が残っていることがわかりました。斜面の高さは約4m、石垣は斜面の上部を除いて確認され、その高さは約2.5mです。石垣に使用されている石材のほとんどは安山岩です。

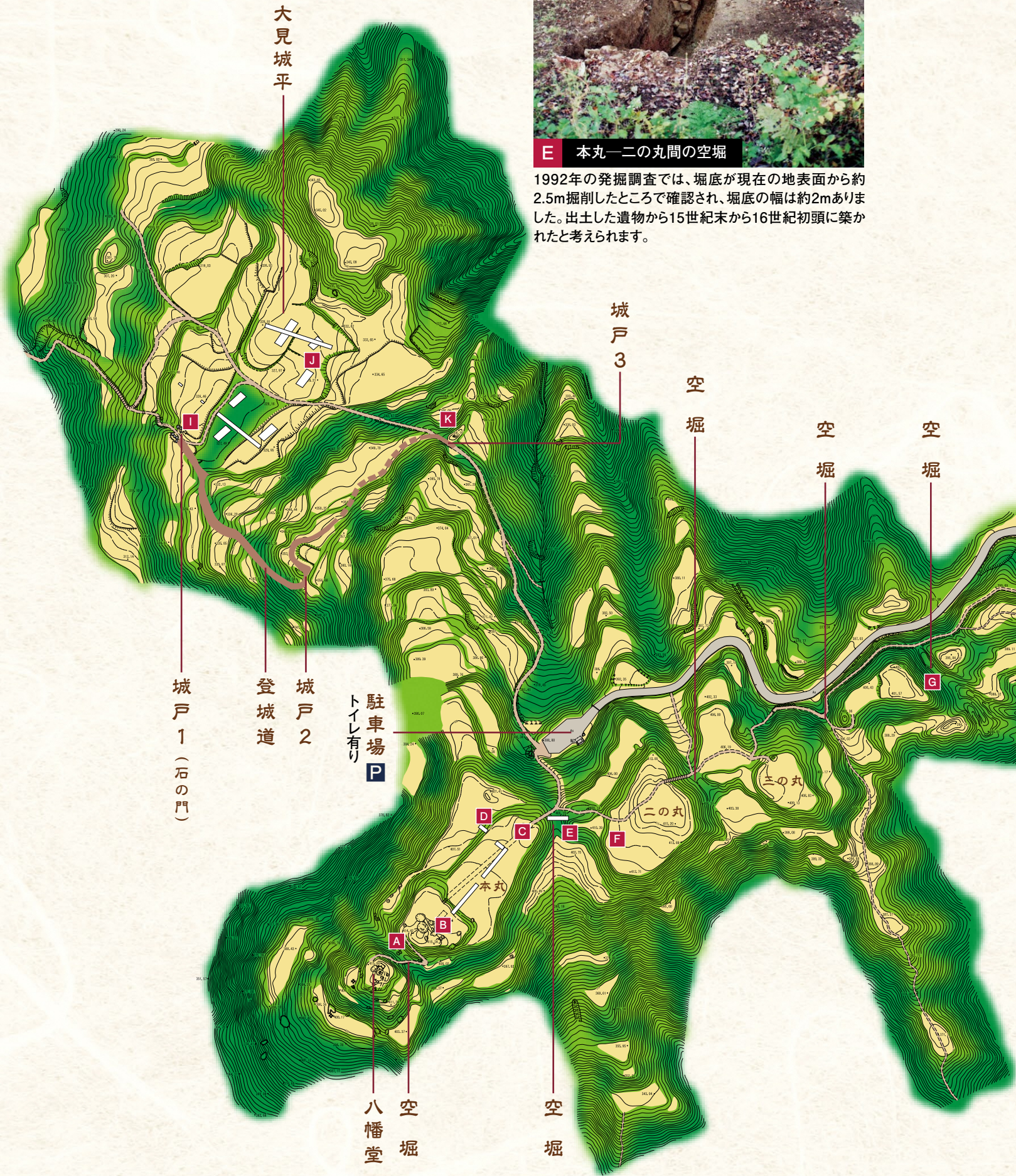


C 本丸

2016年の発掘調査によって本丸では盛り土による複数回の造成が行われていたことがわかりました。調査では径30〜40cmほどの川原石(花崗岩)が確認されており、建物の礎石と考えられています。

松倉城跡平面図

松倉城跡では、1992年に本丸と二の丸の間の空堀、2016年に本丸、1994年と2017年に大見城平において発掘調査が行われています。発掘調査によって、土師器、珠洲焼、越前焼、瀬戸焼、青磁・白磁、染付、るつぽ、古銭、茶臼など様々な遺物が多数出土しています。



E 本丸一二の丸間の空堀

1992年の発掘調査では、堀底が現在の地表面から約2.5m掘削したところで確認され、堀底の幅は約2mありました。出土した遺物から15世紀末から16世紀初頭に築かれたと考えられます。



F 本丸より二の丸をみる



G 尾根上の空堀



A 八幡堂一本丸間の空堀

南北方向に伸びる尾根上に巨大な空堀で区切ることによって主要な曲輪を築いていました。



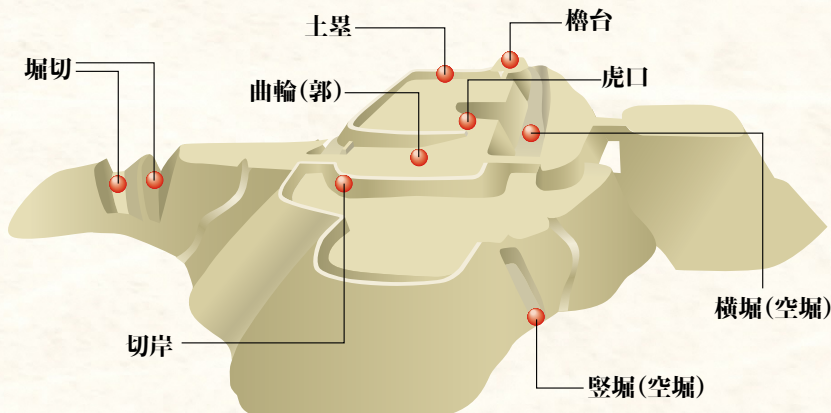
松倉城跡

南東より松倉城跡を望む



H 平ノ峰

東西約44m、最大幅約9mの細長い曲輪で、松倉城跡で最も標高が高い場所(標高430m)です。



くるわ 曲輪(郭)	でこぼこな地面を平らにならした所。中心となる曲輪を「本丸」や「主郭」という。
どろい 土塁	土を盛り上げてつくった土手のこと。敵の攻撃や侵入を防いだり、目かくしの役割もしていた
たてはり 縦堀	山の斜面に沿って、縦に掘られた溝
よこはり 横堀	曲輪の外側に沿って掘られた溝
こくち 虎口	城の出入口
まりまし 切岸	人工的に急な斜面をつくり、人が登りにくしたもの
からほり 空堀	空堀のうち、山の尾根を断ち切るように掘られたもの
やぐら 櫓台	曲輪のなかで一段高く盛り上がったところ、物見台